

はじめに

はじめまして。聖路加国際病院の藤野貴久と申します。現在、卒後7年目に突入したまだまだ若輩者で、普段は血液内科を専攻しています。このたび縁あって病棟での当直コール対応に特化した、類をみない書籍を刊行するに至りました。本書は2021年4月号から2022年4月号まで「レジデントノート」誌に連載された内容を加筆・修正したものです。コンセプトは連載時と同じく、ずばり「**頭も体も働かせて、病棟コールに強くなる!**」です。

当院では初期研修医のうちから、内科当直を多く経験します。その内容は、ERからの内科への入院依頼の対応と、病棟からのさまざまなコールの対応です。当直は忙しく、眠れることの方が圧倒的に少ないです。その代わりに1年目から多くの症例数に曝露されることで卒業時には内科当直が自信をもってできるレベルまで到達することを目標にしています。また当院には内科チーフレジデント（CR）という存在がいます。初期研修医を主な対象として、内科における教育の責任を請け負っている存在です。私も2019年度にその役職を務めさせていただきました。CRは教育の一環として、当直した研修医と前日の**当直内容の1対1での振り返り**を毎日行っております。経験したばかりのほやほやな症例に関する疑問や消化不良な事項をすぐに解決でき、経験を確実に血肉とすることがので研修医の先生方にも好評です。私がCRとなった年度からはじめた制度で非常に手ごたえを感じております。

本書では、そのCRと研修医の振り返りを読者の皆様にも擬似体験していただきながら、**病棟での当直コールの対応をマスター**することをめざします。単行本化にあたっては、図表の追加や文献のアップデートなどを行いました。特に各章の最初に見開きで掲載しているコール対応早見ガイドは類書のない挑戦だと思っております。これが完成形ではないので読んでいただいた後に忌憚のない意見をいただければ幸いです。またなにより本書の内容を通じて、当直の振り返りを導入してくださる病院があることを祈ります。

2023年1月

聖路加国際病院 血液内科

藤野貴久